

## 令和元年度 第2回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和元年7月11日(木) 午後2時から4時25分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12名(欠席なし) 傍聴人：なし  
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、  
サービス担当係長、資料担当係長、推進担当係長、仲町図書館長  
大沼図書館長 計8名

### 4 配付資料

- ・職員の人事異動について(資料No.1)
- ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.2)
- ・令和元年度月別貸出状況(資料No.3)
- ・令和元年度広域利用市別貸出状況(資料No.4)
- ・令和元年度蔵書点検結果(資料No.5)
- ・平成30年度「市長への手紙・図書館への私の意見等受付集計表」集計結果(資料No.6)
- ・「第4次子ども読書活動推進計画」に関するアンケートの集計について(資料No.7)
- ・中央・小川デザインプロジェクト基本計画の策定に向けて(資料No.8)

### 5 職員の人事異動について(資料No.1)

7月1日付けで、図書館は2名の異動があった。

### 6 議事等

#### (1) 報告事項

##### ① 図書館の運営状況について

- ・図書館行事の報告と今後の予定について(資料No.2)

主なものについて説明すると、5月18日、19日に図書館、公民館共催のなかまちテラスまつりを開催し、約3,000人が参加した。おはなし会等は、参加人数が減少傾向にあることから、子ども文庫連絡協議会の協力を得て、昨年度から、平日に参加しづらい方のために日曜日の開催もしている。また、夏休み期間に、いつもよりちょっぴり怖いよるのおはなし会も実施する。6月11日から、各館で2年ぶりに蔵書点検を実施した。

今後の予定として、7月28日、夏休み家族1日図書館員を実施する。また、小学生の図書館見学や、中学生の職場体験を行う。小学生の図書館見学は、小学生が図書館と出会

う機会として、積極的に対応しているが、おはなし会も組み合わせており、児童には楽しんでもらっている。中学生の職場体験は、キャリア教育の一助にと積極的に受け入れている。8月21日は、高校生ボランティア体験として、高校生向けの図書館業務体験やバックヤード見学などを行う。これらは、小平市子ども読書活動推進計画において、中学生、高校生に向けたサービスの拡充の一環として、近年実施している。その他、8月6日、インターンシップを受け入れ、図書館事業全体を理解のため、仕事のローテーションに加わるとともに、図書館サービス、調査、資料などの各系の事業、実習も行う。8月8日（木曜）、小平図書館友の会との懇談会を行う。小・中学生向けの夏休みおすすめ本のリストを作成し、各公立小・中学校を通じて児童、生徒に配布し、館内で対象図書を別置する。

・令和元年度月別貸出状況について（資料No.3）

平成31年4月分と令和元年5月分は、全館合計で243,098点、前年同時期より、12,326点の減である。ここ数年の傾向として、多摩地域全体において減少傾向が続いている。理由は、特定はできていないが、様々な要因が組み重なっているものと思われる。

月別・館別登録者数は41人ほど増加した。月別館別の貸出者数は、中央、花小金井、喜平の順に多い。

・令和元年度広域利用市別貸出について（資料No.4）

貸出者数、貸出資料数ともに東村山市民の利用が多いが、貸出者数、貸出資料数はいずれも減少している。平成31年2月から、立川市との間でも相互利用を開始した。

## ② 蔵書点検の結果について（資料No.5）

昨年は電算機器の入れ替えのため、蔵書点検を行わなかったため2年ぶりの実施となった。資料では比較のため、一昨年度の平成29年度のデータを表示している。

蔵書点検は、館が違う資料、配架場所の違う資料、不明となった資料の確認を行う。

123万9,628点の資料に対して、1,513点の不明本が発生、継続不明資料と合わせると3,196点となる。継続不明資料とは、この3年間の不明資料の総数で、3回続くと除籍となる。割合の増は、1年点検が空いたためと考えている。

## ③ 市議会6月定例会について

一般質問について、図書館に関するものは1件で、水口かずえ議員から、「中央公民館及び健康福祉事務センター等の更新にはなかまちテラスの経験を生かすべき」という件名で、なかまちテラスは建設に至るまでの過程で市民や図書館・公民館の現場職員の意見を十分に取り入れられなかったことが、使いにくいとの声が上がっている原因として指摘できるが、これについて市はどのように認識し、この仲町の経験を今後どのように活かすのかとの質問であった。答弁として、なかまちテラスの建設の際には、基本設計についての説明会を平成22年12月に3回開催し、建物の外観や駐車スペースなどについて、様々なご意見、ご要望をいただき、その検討結果についての報告会を平成23年3月に開催し、おおむねご理解をいただいたものと受け止めている。今後も施設の更新に当たり、必要な市

民参加の手続きと分かりやすい説明を心がけていくとした。

6月定例会までに提出された図書館に関する陳情は、1人から2件あり、1件目は、「小平市立図書館における即時貸し出し禁止措置の撤廃について」という件名で、小平市立図書館において、返却した図書を同一利用者が再度の貸し出しを希望した時は、他の利用者の予約が入っていない場合、即時貸し出しが行われるようにしてください。という内容で、2件目は、「小平市立図書館におけるDVDの貸し出しを求めることについて」という件名で、小平市立図書館条例施行規則第7条を改正し、制限対象外視聴覚資料にDVDを加えることにより、小平市立図書館においてDVDの貸し出しが行われるようにしてください。というものだった。

④ 平成30年度「市長への手紙、図書館への私の意見等について」（資料No.6）

平成30年度は、合計60件であった。種類としては、電子メールによる意見が多く、差出人の氏名、住所が記載されているものには、回答をし、無記名のものについては、参考とさせていただいた。

主な内容としては、蔵書、システム、備品・施設の改善、が多かった。貴重な意見と受け止め、改善に結びつけるものとする。

⑤ 第4次子ども読書活動推進計画に関するアンケートの集計表について（資料No.7）

計画策定の背景には、平成13年に子どもの読書活動の推進に関する法律が制定、子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動ができるよう、環境の整備が推進されなければならないとされ、国、自治体の責務が定められたことがある。小平市でも計画を策定し、現在は、第3次子ども読書活動推進計画を進行平成27年度から平成31年度までの5年間の子どもの読書の環境整備に努めている。第3次子ども読書活動推進計画は、今年度が最終年度で、次年度以降の第4次子ども読書活動推進計画の準備として、子どもの読書状況を把握する目的で実態調査アンケートを行い集計した。

調査対象は、幼稚園児、保育園児、小学校4年生、中学校2年生、高校2年生とし、幼稚園児、保育園児については保護者に、小・中学校生、高校生については、本人に回答をしてもらった。平成31年1月中旬から2月末までを調査期間とし、回収率は、未就学児55%、就学児68%だが、率の低さは、配布を実態の人数と合わせて配布したのではなく、不足が生じないよう、多めに用紙を配布したことからと思われる。アンケートは、未就学児と就学児を別にし、集計は、複数回答なしのものを円グラフに、複数回答ありのものを棒グラフで表した。

まず、未就学児については、問2「お子さんは普段、本と接する機会がありますか。」では、98.6%があるとの回答で、ほとんどのお子さんが何らかの形で本と接する機会を持っているという結果であった。問6「家庭で、読み聞かせをしているのは主にどなたですか」では、母が読み聞かせをしているが、98.4%、父が48.6%で、母親が主に読み聞かせを行い、父親も参加しているのが、半数という結果に、問7「読み聞かせの本はどのように選びますか」では、書店で選ぶが一番多く、図書館については、57.1%

で2番目という結果であった。問10「お子さんが本と接する機会がないのはなぜですか」は、問2でないと回答した方のみで、サンプル数が4人と少ないため、参考にするには難しい。問11から問13までは、小平市の図書館の年齢別の絵本リストに関する質問で、問11、年齢別の絵本リストを知っている方が31%、問12、そのうち活用したことがあると答えた方が63.6%、問13、活用してみて役に立っている方が92.9%と、満足度が高い一方、利用率はまだまだであることがわかったため、利用の拡大についての検討が必要と思われる。問14では、行事について参加したことがあるとの回答が22.9%で、どちらかという減少傾向にある。

続いて、就学児について、問1「最近、本を読みましたか」では、読んだという回答が9割だったが、年齢が上がるにつれて、本を読まない傾向が見られた。問3の読んだ本の入手方法については、書店で買った、学校の図書室、市立図書館の順であった。問6、問7では、「読書は好きですか」に対し、好きが71.5%で、そのうち、好きになったきっかけとしては、約半数がおもしろい本との出会いと回答であった。問10、問11、問14、問15について、学校図書館の利用状況、市立図書館の利用状況についての質問では、学校図書館の利用が52.6%のおおむね半数に対し、市立図書館の利用は60%で、利用状況としては、市立図書館のほうが多かったが、利用頻度については、学校図書館で、週1回以上という回答が40%以上であるのに対し、市立図書館では、週1回以上が10数%で、学校図書館のほうが利用割合は低いものの、利用頻度は高い傾向が読み取れた。問18の「市立図書館の利用カードを持っていますか」は、76.6%、おおむね3/4が持っているという回答であった。また、図書館から遠い学校のほうが近い学校のほうがよりも取得率が低い傾向も見られた。問24から問26は、ティーンズコーナーについての質問で、小平市の図書館には各館にティーンズコーナーを設置しているが、その認知度は20.2%と低く、さらに、知っていると答えた人でも、よくもしくはたまに利用しているとの回答が、約40%であった。ティーンズコーナーに望むことの問いでは、今のままでよいが多いが、未回答も24.3%と、ティーンズコーナーへの関心のなさが表れており、改善の必要があると認識している。

現在、アンケートの結果から見える課題等を分析しており、どのような事業が展開できるのかを検討している。次回、9月の図書館協議会では、第4次子ども読書活動推進計画の素案を示したいと考えており、素案は早めに配布するつもりでいるので、第3次子ども読書活動推進計画も参考にご意見をいただきたいと考えている。

#### 〈報告事項についての質疑・応答〉

委員：蔵書点検について、一般の図書館や学校図書館の不明図書は普通どれくらいあるものなのか。

事務局：平成29年度の数字程度、新規不明資料数が0.1%くらいかと思う。今年度が、0.12%と若干増えているのは期間があいたからかと思う。

- 委員：貸し出されて返されない本と貸し出されないで不明となった本の割合はわかるのか。
- 事務局：貸出をしている資料は不明図書にはならない。不明図書は、借りずに持って行ってしまったか、貸出時に手続きがもれた場合で、小平市の図書館は、仲町図書館しかBDSがないので、貸出をせずに持ち出されればそのまま不明図書となってしまう。
- 委員：図書館の本を意図的に持っていく者もいる。高価本で持っていかれると補充しづらい本を狙う。高価な本でなくても、叢書、全集などのうち発行が少ない本を1冊だけ持っていく。古本屋も、ほかの本を揃えて売ることができるので、高く売れる。図書館でもそのようなことが起こっていると思う。図書館員よりその手の人は上手かもしれない。大学図書館のBDSの設置の際も付けざるを得ないだろうと判断した。ここの図書館でも、たとえば、参考室の本などなくなっていないか。そういったことも考えていかないといけない。
- 委員：子ども読書活動推進計画のアンケートで、就学児に関して、年代が上がるにつれ読んでいないとの話だった。各年代で回答者の特性があると思うが、性別や年代を取っているなら、図書館の利用についても年代から見ると、どのくらいの年齢から図書館離れが進むかもわかるのではないだろうか。
- 事務局：今後の予定として、計画の形になるとときには、小学生、中学生、高校生と分けて数値を出すことを考えている。
- 委員：市長への手紙・図書館への私の意見等で、自分も6年前に図書館と公民館が同じ敷地にあるのに休館日が違って使い勝手が悪いので、休館日を合わせられないかと提案をした。近隣で西東京市を調べたところ、同じ日が休みであった。想像だが、休館日が同じか違うかで、冷暖房費用も違うだろうし、人の使い方も違ってくるのではないかと思うので、経費節減につながるのではと提言したのだが検討の余地なしとの回答だった。今回この資料がでてきたので、検討をしていただけないか。
- 事務局：中央も図書館と公民館が隣り合っているが、休館日はずれている。長年の利用者もいるので難しいかと思うが、今回、最後の議題にある小川西町は、図書館、公民館が同じ建物に入る予定なので、いろいろな意見をいただき、なかまちテラスも同じ建物だが、さらに融合した形で進んでいくのではと感じている。図書館と公民館をそろえた形で検討できないかという課題も地域住民の意見も聞きながら、検討課題としてあげていこうと考えている。
- 委員：公民館を週1回サークルで使用しているが、そのメンバーに聞いても非常に不便だという意見もあるので、心を入れて検討をしていただきたい。
- 会長：なかまちテラスができる際もこのような話があり、館長を2人置く必要があるかなどのお話があった。なかまちテラスは、結果、館長は2人で、その他の職員は、人事交流も少し行って、少ない人数で効果的に事務を行うこととなったが、休館日はどうであったか。
- 事務局：休館日は、月に1度全体で合わせている。
- 会長：その部分も今度の小川西町の課題かと思う。

先ほどの蔵書点検の結果で年約3,000冊前後というのは、BDSが入っていない状況で、長年同じような数字で、新規で不明となっても、数年後に戻る図書もある。

委員：0.1%の不明図書は少ないのではと感じた。小平の市民はむやみに持っていったりしないと感じた。隣の市では、紛失の危機感か、BDSが導入されていて、利用率が高ければ、不明図書もふえるのは道理かと思っている。少ないのは、むやみに持っていかないという考えもあるし、利用率が少ないという見方もあるかと思う。

事務局：蔵書は市民の財産であるので、盗難等はないほうがよい。毎年、1,000点の本が不明とすると、仮に1冊1,000円だとしても年に100万円となるので、小さい数字でもないと考えている。

委員：点数というより、1回なくなると補充できないものもあるので、持っていかれる本の質を評価しないといけない。

委員：BDSについては高額なので、BDSが入っている仲町図書館とそれ以外の館の不明本の状況を分けて見ることで、購入の検討材料となるのではないか。

会長：図書館で、館別、図書の種類などの詳細を把握しているのではないかと思うがどうか。

事務局：今、手元には資料がないが、館別等の統計はあるので、仲町図書館と他館の違いがどのくらいあるかを見れば、BDSの効果が見えてくると思われる。新しい小川西町図書館にも生かせればと思う。

会長：仲町図書館にBDSを導入する際、他の図書館にも入れていきたいと話がでたときに、入館者もタグをとれば把握できるとの話もでた。他の図書館の参考となるので、仲町図書館のデータは詳細にとっておいていただきたい。仮に1年に100万円、10年とすると1,000万円、BDS導入の予算としては十分な額なので、そういう検討をできればいいと思う。また、詳細も時々教えていただきたい。

委員：貸出件数減少の件にはいろいろな要件があるかと思うが、その状況を検討している自治体もあって、例えば、武蔵野市の貸出件数は、一度大幅に下がったが、他の自治体下がっていく中で、武蔵野市は上がり続けていたので、持ちこたえている自治体とそうでない自治体とがあると思う。世間全体としては、スマホなどにより読書時間が減少しているのは間違いないと思うが、持ちこたえている自治体を分析してもいいかと思う。先ほど、経験則でスマホの利用がと言ってしまったが、本当にそうなのか、分析は非常に難しいと思っている。様々な要因かとは思いますが、3、4年ほど、わからないで済まされてしまっているので、小平市でとは言わないが、図書館業界全体で、分析していかなければいけない問題かと思っている。

事務局：ここ数年、かなり多くの自治体で貸出冊数が減少している。公式な数字としての原因追究は中々難しい。非公式なデータでは、平成26、7年あたりから、例えば、電子書籍の蔵書数が爆発的にふえている。また、電子書籍しかない図書もある。電車に乗ると、昔なら、本を読んでいる人が大勢いたが、最近では、ゲームの人もいるが、スマホなどで本を読んでいる方も見受けられる。数字として見えてこず、答えが難しいところでは

ある。そのような中で、減少を食い止めている自治体も見られるので、参考にして、研究していきたい。

会 長：図書館で検討した事項も協議会に示していただいて、原因をひとつずつ潰していけたらと思う。それが、ティーンズコーナーの有効利用にも繋がり、中高生が図書館へ足を向けるヒントになればと思う。

委 員：アンケートについて、第3次子ども読書活動推進計画の数字から変わったことはあるか。

事務局：第3次子ども読書活動推進計画の数字と比較して、例えば、第3次子ども読書活動推進計画の間11と今回の間11は、ブックスタート事業も始まったことで、事情が変わっており、前回、絵本のリストを知っているが58%に対して、今回は31%と変わっているところはある。全体としては、大きく変わった点はあまりないと思う。

委 員：前回の会議で、学校図書館の相互貸借の話があったかと思う。学校図書館と市立図書館、大体の子どもが両方使っているのだろうが、そうでない子どもがどのような動きをしているのか、分析ができるとおもしろいかと思う。

事務局：集計としては、学校ごとに合計数で管理しているので、クロス集計が難しいが、そのあたりも踏まえて施策の検討をしていければと思う。

委 員：アンケートの調査方法だが、幼稚園、保育園へどのように配布をしたのか。

事務局：先生から、園の保護者全員に配布してもらった。

委 員：中学、高校も全員か。

事務局：対象が小学校4年生、中学校2年生、高校2年生で、全ての市内公立の小・中学校とし、学年の中では任意の1クラスに配布した。高校については、小平高校に協力してもらい、外国語コースのクラスと普通科クラスの2年生、1クラスずつ2クラスに回答してもらった。

委 員：統計について、凡例として記録しておいたほうがよい。誰に配るかでも数字が変わったりするので、統計の総数を把握できるようにしたほうがよい。

委 員：就学児のアンケートの回収率が、前回との比較で、88%から68%に下がっているが、原因があるのか。

事務局：小中学校は、40人と見込みで配布したが、学校のクラスとしては、27人から39人と幅がある。回答はほぼ全員にもらったが、配布数からみた回収率となっている。

会 長：実際に配布した枚数から回収率を出すようにしなければいけないのではないか。次回から、母数にも気を配ってほしい。アンケートについては、これからもいろいろな形でとっていくと思うので、学校図書館と市立図書館をどのように使い分けているのかなどもわかるように質問を用意していただけたらと思うし、私たちも意図して考えを巡らせていきたい。この次のアンケートについては、生かせるようにしていただきたい。

#### ⑥ 中央・小川デザインプロジェクトについて（資料No.8）

小平市では、中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館などの中央エリアと、西部

市民センター・小平元気村おがわ東の小川エリアの公共施設について複合化などに関する基本計画の策定を、市民参加で進めている。

本件について、公共施設マネジメント課から情報提供があったので、図書館と関連がある部分を中心に報告する。なお、図書館で答えられない質問や要望等については、公共施設マネジメント課に伝える。

市では現在、平成30年3月に策定した、(仮称)中央公民館及び健康福祉事務センターの更新等に関する基本計画策定方針及び、平成30年5月に策定した(仮称)小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画策定方針に基づき、令和元年秋頃の基本計画策定に向けた取組を進めている。基本計画の策定方針の中では素案の段階で市民意見公募手続きを行うこととしているが、更に丁寧な基本計画づくりのために、素案の前段として、素案の方向性を市民参加の場で示し、それに対する意見、感想を求めることとした。

基本計画素案の方向性は、9つの項目で構成されている。

「1 これまでの経緯」について、まず中央エリアについて、平成29年度に、老朽化が進む中央公民館及び健康福祉事務センターについて、更新等を行うこととし、両施設の複合化等について検討することとした。また、近隣施設で老朽化の進む福社会館等との複合化等についても検討することとした。小川エリアについては、平成30年度に、にぎわいの創出や公共施設の集積の核とするまちづくりの観点及び公共施設マネジメントの観点から、小川駅西口地区市街地再開発事業における公共床等を取得することとした。近隣の西部市民センター・小平元気村おがわ東等の機能について再配置等を行うこととした。そして中央・小川デザインプロジェクト、こちらは中央・小川デザインカフェや利用者・利用団体ヒアリング、アンケート等の活動の総称だが、この中央・小川デザインプロジェクトの中で中央エリア・小川エリアを一体的に検討するものとし、市民参加の場を設けた。

「2 コンセプト」について、小平市公共施設マネジメント基本方針に掲げている、小平市としての基本的な理念について、個別の施設の議論をする前提として、今公共施設マネジメントが求められている意義や背景といった、総論的な事柄について記載している。

「3 複合化等の方向性」について、中央公民館、健康福祉事務センターの更新に合わせて福社会館については、目標耐用年数まで10年程度であること、給水管、排水管、空調などの設備の老朽化により、多額な改修費用をかけるよりも、今回の更新に合わせることで合理的なため、複合化の対象とし、中央図書館については、目標耐用年数まで25年以上あり、今後も相当期間の利用が可能であることから、今回の複合化の対象とはしないこととする。小川西町図書館を含む、西部市民センターや小平元気村おがわ東は、基本的には小川駅西口公共床に移転する。中央や小川の、エリアをまたいだ大きな機能移転はしない。

「4 施設内の機能等」について、中央、小川エリアともに中央・小川デザインプロジェクトにおける市民からの意見を踏まえ、①様々な人や世代が気軽に集い交流する場として、フレキシブルで多目的に使えるフリースペースの設置。②憩いの場として、軽食ので



きるスペース(カフェ等)の設置。③ダンスや音楽などの活動をするための防音室の設置。④学習室、講座室、集会室等、市民が利用する部屋の機能の保持、共有化。⑤施設内の各機能の配置についての可変的な空間設計などの工夫。⑥新しい施設の機能に見合った、駐車場スペースの確保。の6点について検討をする。中央エリア仮称新建物については、①(仮称)新建物は、生涯学習機能、老人福祉センター機能、市の行政事務機能を複合化することにより、市民の多様な活動や交流に繋がるような施設を目指す。②複合化により、目的の異なる機能が同一の建物に設置されるため、動線や配置、防音などに配慮する。③福祉会館は、建築当時と現在では、社会環境や、市民のニーズも大きく変化していることが想定されることから、新しい施設に入る機能について、検討する。④現在福祉会館に入居している団体が、(仮称)新建物に入居するかどうかなどについて、今後検討を行っていく。小川エリアについては、①生涯学習機能と市民活動支援機能が複合化することによる相乗効果により、多世代の多様な活動が重なり合い、新たなコミュニティ活動の萌芽に繋がるような施設にし、また再開発ビルの1階から3階や、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す。②西部出張所が駅前の公共床に移転することにより、市民の利便性を向上させる。③公共床とともに取得する広場、これはロータリーのある駅前広場ではなく、いわゆる市民広場のような広場、(仮称)小川にぎわい広場について、建物内の公共床との繋がりを持った活用を目指す。④フラットで広めの多目的室、(公民館にあるホールのような部屋)は、柱の本数が少なく、設計に影響を与えることから、現段階で、5階の北西側に配置するものとする。

「5 延べ床面積」について、中央エリアについて、公共施設マネジメント推進計画の中では、既存施設を更新する際は原則的に複合化することにより、将来的には市の公共施設の延べ床面積を20%縮減するという目標を掲げている。そうした中、検討し、現段階では概ね6,500㎡から8,000㎡の間になると想定している。小川エリアについて、小川駅再開発ビルの低層棟の4階・5階フロアの約3,450㎡を取得するとともに、(仮称)小川にぎわい広場として、再開発区域の北西側に約1,000㎡の用地を取得する。

「6 事業費」について、中央、小川の共通事項として、財源については、国や東京都の補助金を活用する。また、単年度に多額の財源を必要とするが、世代間の負担の均衡を図るとともに、財政負担を後年度に平準化するため、市債を借入れる。さらに、不足する財源については、基金からの繰入金で対応する。現段階では、具体的な額を記載することはできないが、世代間の負担の均衡を図りつつ、財政状況に配慮しながら事業を進めていく。資料には、現在想定される金額を記載している。

「7 事業手法(整備・運営)」について、中央・小川共通の事項として、①中央・小川ともに公民連携を視野に入れる。②受益者負担に関しては、中央の(仮称)新建物、小川の公共床といった個別の施設の問題ではなく、市全体として検討すべき内容であるため、市全体の方向性に沿った対応をする。③行政財産の目的外使用許可を得て公共施設に入居している団体、例えば、社会福祉協議会や歯科医師会などの新しい公共施設の使用にあた

っては、行政財産の貸付とする方向であり方の検討を行う。中央エリアでは、運営面では民間の創意工夫の余地が少ないと想定されることから、特に整備に関する事業手法として、公民連携の可能性について検討する。小川エリアでは、小川駅西口地区市街地再開発事業の準備組合が進めているが、スケジュールの関係等から、整備は市施行とし、運営に関する事業手法として、指定管理者制度などの公民連携の手法を検討する。また、小川駅西口公共床の付加価値や（仮称）小川にぎわい広場の活用については、公民連携の中で様々な可能性を検討していく。

「8 跡地の使途」について、中央エリアでは、①中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館は、新しい施設に機能を移転した後に解体する。②福祉会館跡地については、市民広場に建設される（仮称）新建物に隣接するため利用者の利便性を確保するために駐車場を整備する。③現在の市民広場に（仮称）新建物が建設されることから、健康福祉事務センター跡地については、レクリエーション、交流、イベント、駐車場等、柔軟に利用できる多目的エリアとして整備する。④中央公民館跡地については、将来的な市役所本庁舎等の更新時の整備用地として活用することを見据え、それまでの間は臨時の駐車場用地としての活用や、民間事業者への貸付を行うなどの財産活用を検討する。次に小川エリアでは、①西部市民センターは、新しい施設に機能を移転した後に解体する。短期的には小川駅西口地区市街地再開発事業の工事に関連する暫定的な活用、たとえば工事ヤードや臨時の自転車駐車場などの活用も視野に入れる。その後は跡地を売却し、新しい施設の整備費に充てることを基本とする。②小平元気村おがわ東は、福祉的機能、教育的機能は移転せず、引き続き活用する。建物も解体しない。また、他の施設に移転した場所については、耐用年数を迎える公共施設の代替場所とし、小平市公共施設マネジメント基本方針で掲げる、延べ床面積の縮減に寄与するためのスペースとして活用することを検討する。

「9 スケジュール」について、中央エリアでは、従来型による整備を行った場合の予定で、基本設計、実施設計、工事、を経て、概ね令和7年度に供用を開始する。小川エリアでは、本体工事を再開発事業の準備組合が施行するので、市は主に内装などの工事になるが、概ね令和5年度の供用開始を予定している。スケジュールに関しては、中央・小川ともに、従来型による整備を行った場合の、現時点で想定される最短のスケジュールである。7月11日から17日にかけて、地域住民及び施設の利用者・利用団体説明会の開催を予定している。

#### 〈報告事項についての質疑・応答〉

会 長：2つのプロジェクトが同時に進行する。中央エリアでは、中央公民館が移転するにあたり、図書館にも騒音が生じるが、実際の工事は、線路を挟んで、健康福祉事務センターや福祉会館の方のグラウンドに建てる予定となっていて、小川エリアでは、西部市民センター2階にある小川西町図書館が移転となる。図書館としては、小川西町図書館の移転で、BDSの導入も含め、こういった施設にしてもらった方がいいのかだと思う。

委員：BDSはできるところからと思うので、小川西町図書館につけてほしい。

委員：小川西町図書館には、仲町図書館と同じようにカフェをつけてほしい。滞在型の要素を入れてほしい。

事務局：面積的には、今よりも狭くなることはないと思うが、他の施設との共有の部分もでてくると思うので、そういったところで、嗜好のスペースも考えていきたいと思う。

委員：他の施設と共有で構わないので、施設の一角にカフェができるとよいと思う。

委員：デザインプロジェクトとは、どのようなものか。

事務局：プロジェクトは、昨年からスタートしており、6回ほど実施している。いろいろな方に集まっていただき、お茶でも飲みながら、話し合ってきた場があり、今回は、チラシにあるとおりで説明会的な形にはなっているが、皆さまの声を伺っている。

委員：中央公民館のデザインプロジェクトは、いろいろなところでやっているかと思うが、いつもタイミングが合わず、1度しか参加したことがない。情報が早めにわかるのであれば、知らせてもらえるとありがたい。

事務局：図書館協議会の場で情報提供をしていきたいと思う。

委員：排架されている図書を見るとBDSが一番必要なのは中央図書館だと思う。ずいぶん前に中央図書館にBDSを付けたらどうかと諮問したことがあるが、その後、検討したことはあるか。

事務局：中央図書館参考室について、以前、実行プログラム案件として提案した経緯はある。

事務局：今回の中央・小川デザインプロジェクトに中央図書館は入っていないが、小川西町図書館は対象なので、ひとつのチャンスとしてBDSを入れていけたらと思う。中央図書館は規模が大きいので大変だが、中央公民館は解体する一方で、中央図書館は25年の耐用年数そのままにしておくということでもないと思うので、機会を見つけていければと考えている。

委員：小平市は分館が多いので、建て替えていく中で、一か所ずつでもICタグ化が進んで、最終的に全てが変わった時に相互貸借などに更なる活用ができると思うので、建て替えのタイミングも捉えてBDSで管理できるよう進めていただきたい。

会長：小川西町の建物は1階から3階までが市の建物か。

事務局：駅側に高層棟ができ、その西側の5階建ての建物の4、5階が公共床となる予定で、下は商業スペースとして検討している。

会長：高層ビルと5階建ての建物のつながりはあるか。

事務局：1階部分は通り抜けられる通路があって、その上は何か所か繋がっているイメージかと思うが、具体的な設計までの把握はしていない。

会長：できれば、施設は下の階のほうがよいが、市民がどこからでもたどり着けるように、特に小川西町図書館は障がい者支援に注力しているので、考えていただきたい。

委員：4、5階が公共スペースということで、忙しい人の本の返却や予約した本の受け取りが1階でできれば利便性が高くなるが、市のスペースがあるか。ある場合は、一方で、4、

5階に上がって来てもらう訴求力がさがってしまうかとも思うが、可能であれば、検討をしていただきたい。

事務局：意見を担当課に伝える。1階北側の広場については、市で利用を考えていると聞いている。

委員：駅からの通路が何階になるかだと思う。

事務局：小川駅の今の改札は2階だが、そこからつながるかは未定。

委員：公民館、図書館の数が小平市は多い。人口は今のところふえているが、今後、施設の統廃合も考えていかなければいけない。ニューヨークで図書館、公民館のあり方を題材とした映画がよいものらしい。

事務局：公共施設マネジメント課が市の施設について、機能等もふまえて、今後どうしていくかを検討していくものと思う。

委員：図書館、公民館だけが華やぐことはなくて、町全体がにぎやかになれば、図書館や公民館にも人が集まるのだと思う。

事務局：担当課でもその部分も含めて考えていると思う。

委員：先ほどのニューヨーク公共図書館の件だが、中々、特殊な図書館なので、そのまま参考にするにはできないと思うが、公共図書館の精神としては学べる映画かと思う。

委員：図書館は本との出会い、公民館は人との出会いで同じものではないかと個人的には思っている。なので、わざわざ分けるものでもないかと思っている。

事務局：図書館、公民館のトップを1人にするかなどは、組織に影響すると思うが、2つを融合させることにより、いい点が出していけるのではという考えもある。

委員：図書館として、変わっていけない部分と変わっていい部分を間違えてはいけないと思う。人と本を基本に据えて、そうしていても新しいことはいつも考えていかなければならないと思う。

委員：以前、読み聞かせ隊というものに参加をし、東久留米の幼稚園に行ったことがあるが、そのような小さなところから、子どもたちに啓蒙するようなものもあるとよい。

会長：小平市内の幼稚園、保育園などには、要望をいただいて、子ども文庫の方が読み聞かせなどを行っている。

委員：幼稚園はまだ少ないが、保育園は市内全園回っている。小学校でも月1回ストーリーテリングに行っているところもある。

委員：子どもは五感で本に親しむことは大事と思う。

委員：最近では、スマートフォンやタブレットなどからの情報収集が多くなっている。人間はITによってコミュニケーション力や危機管理も断絶してしまうかもしれないので、実物の本を大事にする文化を積極的に作っていくことは図書館としての役割かと思う。

委員：この計画には、中央図書館は入っていないとのことだが、そのことで、利用率がどのように変わっていくか、また、その後、図書館を建てなおす時は、今回の計画の場所に近づけるのか、今の場所のままなのかは決まっているか。

事務局：今回の計画には、その後の中央図書館の建て替えについては触れていない。

委員：中央図書館について、ただ単に耐用年数で建て替えを決めるのは考え方として古いのではないか。

事務局：担当課としては、市の施設の耐用年数について、施設を複合化すべきかどうかも含めてv f管理している。

会長：例えば、中央公民館の建て替えが計画されているところについて言えば、中央公民館の建て替えを遅らせて中央図書館の建て替えを早めて一緒に建て替えるというような考えの余地はないか。要は、人と建物を有効利用できるような検討はなされないのか。

事務局：意見として担当課に伝える。

会長：耐用年数はわかるが、全体の構想を長い目で見て考えてほしい。

委員：なかまちテラスは著名な建築家をお願いしたが、図書館としては、武蔵野プレイスなどと比較すると話題性は低かった。その経験からも、今回の小川西町図書館については、せつかく駅から近い場所なのだから、図書館としての話題となるような何かがあるとよいと思う。

委員：防犯カメラはどうか。

事務局：防犯カメラは盗難には有効な手段ではあると思うが、図書館として個人のプライバシーに配慮しなければならない点では難しい。

会長：小川西町の計画の会議には図書館側は出席しているか。

事務局：中央図書館長、小川西町図書館長が交替で出席している。

会長：その会議の中で、公民館との歩み寄りをどうしていくかが課題かと思う。そのうえで、与えられたフロアをどう使うかと思う。

委員：話し合いの場に民間活用を検討したほうがよい。

会長：市は意見を聴いたとよく言われるが、意見を聴くだけで通らないことが多い。意見交換の場を生かしていかないといけないと思う。

委員：小川西町は駅とは別棟かと思うが、一緒にならないものか。

委員：担当は、西武鉄道とも話はしているのではないだろうか。

事務局：いろいろな話し合いはなされているとは思いますが、図面上は合意されたことしか書けないのではないかと思う。

会長：市民にとって使いやすい施設となるよう願う。次の説明会はいつか。

事務局：小川西町公民館で今日の夜に開かれる予定である。

## (2) 協議事項

特になし

## (3) その他

委員：先ほどの中央図書館の建て替えについて、25年耐用年数があるが、何もしないという

ことではないとの話であったが、どのようなことを考えているか。

事務局：大きな計画で建て替え等がない場合は、補修や修繕等になるかと思う。また、25年の間に図書館を取り巻く環境も変化していくかもしれないが、具体的にお話しできることはない。

委員：今まで、中央公民館との交流はある程度あったと思うが、離れてしまうとなるとそれをどのように確保していくのか考えはあるか。

事務局：今回の中央エリアの計画で、中央公民館とは離れてしまうが、跡地についても未定。今後どのような計画となっていくかだと思う。

会長：一番合築がし易いのは公民館かと思われるが、公民館が先に計画が進んでしまうことで、図書館の合流が難しくなるかと思う。仲町は公民館と図書館が同時期に建設されていたから、建て替えの計画もスムーズであったが、ここは、耐用年数がばらばらなので、市はどのように公民館活動や図書館活動を推進していくか、小学校は多いが人数が減ってきているので、減らしていくのかと思うが、一方、保育園はふやしていかないといけない。老人施設も少ないので、ふやしていかないといけない。そういった中でどのように進めていかなければならないか、長期的な計画を耐用年数だけで捉えるのは不安なので、計画の担当に伝えていってほしい。